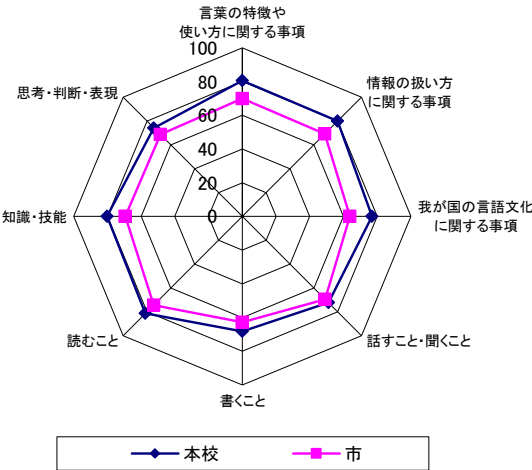


宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.6	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	80.0	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.9	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	72.3	69.5	71.5
	書くこと	68.2	62.8	67.1
	読むこと	81.3	74.4	73.7
観点別	知識・技能	80.2	69.4	71.9
	思考・判断・表現	74.3	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

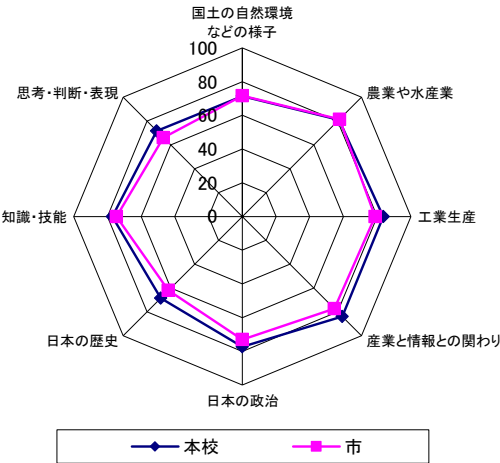
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○領域全体の正答率は、80.6%で市の平均を10.7ポイント上回っている。 ○5学年の配当漢字は市の平均を大きく上回っているものもあった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字についても折に触れて取り上げ、練習問題に繰り返し取り組み、より一層の定着を図る。
情報の扱い方 に関する事項	○領域全体の正答率は、80.0%で市の平均を10.8ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、市の平均を10ポイント上回った。	・目的に応じた情報を選び、情報と情報の関係について正しく理解し、文章にまとめることができるような機会を、他教科でも継続していく。
我が国の言語文化 に関する事項	○和語・漢語・外来語についての理解を問う問題では、市の平均を13.1ポイント上回った。	・語句の由来に関心を持ちながら活用できるように、今後も熟語の特質の理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	○領域全体の正答率は、72.3%で市の平均を2.8ポイント上回っている。 ●意図に応じた質問の工夫を問う問題では、市の平均を3ポイント上回ったが、正答率は7割程度であった。	・日常的に友達の意見や自分と違った意見をメモする習慣がつくように指導していく。 ・話し合いでは、相手の回答を自分の言葉で表現し直して、話の要点を確認するような活動を取り入れていく。
書くこと	○領域全体の正答率は、68.2%で、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○予想される反論とそれに対する自分の考えを書く設問では、市の平均を16.3ポイント上回った。 ●指定された長さで文章を書くことに課題が見られた。	・教師が意図的に多様な表現を取り上げ、児童が良い表現に気付いたり、触れたりする機会を増やす。 ・指定された長さや段落構成などの条件を守って、時間内に書くことができるよう、身近なテーマで小作文を書き、文章を書くことに慣れさせていく。
読むこと	○領域全体の正答率は、81.3%で市の平均を6.9ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える設問では、市の平均を10.2ポイント上回った。	・説明文では文章全体の構成を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりする指導を継続して行っていく。 ・状況・描写を的確に捉え、登場人物の行動を読み取ることができるように読書の機会を増やす。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.4	71.6	67.5
	農業や水産業	81.0	81.5	82.1
	工業生産	83.6	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	83.8	77.2	68.2
	日本の政治	77.3	73.1	77.9
	日本の歴史	68.5	62.0	65.8
観点別	知識・技能	77.1	74.6	74.5
	思考・判断・表現	71.8	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

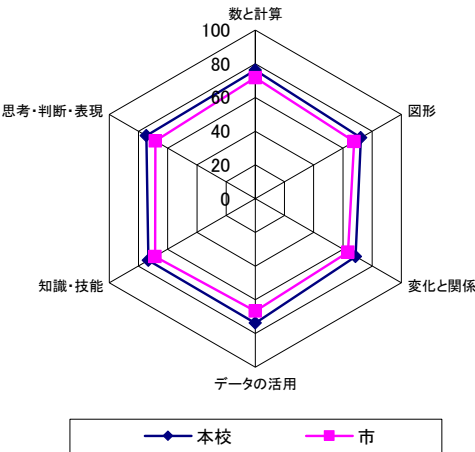
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●領域全体の正答率は71.4%で、市の平均を0.2ポイント下回っている。 ○森林の働きに関する問題についての正答率は87.7%で、市の平均正答率を10.6ポイント上回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに地図を読み取る問題についての正答率は24.6%で、市の平均正答率を12.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学習において意図的に地図帳を活用し、地図を読む習慣を身に付けることで、地理に関する基礎的な知識の向上を図る。 ・河川の名称と地名とを関連付けて指導する。
農業や水産業	●領域全体の正答率は81.0%で、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ○都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに適切な地図を判断する問題の正答率は81.5%で、市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ●カンントリーエレベーターに関する問題の平均正答率は80.0%で、市の平均正答率を2.5ポイント下回っている。	・複数の資料を読み取り、それらを関連付けて考える機会を設けていくようにする。
工業生産	○領域全体の正答率は83.6%で、市の平均を4.9ポイント上回っている。 ○キャリアカーと船に着目しながら自動車の出荷の工夫を捉え表現する問題の平均正答率は70.8%で、市の平均正答率を8.6ポイント上回っている。	・写真や図などの資料を扱った問題に取り組む機会を設けて、資料を活用する力が更に身に付くようにしていく。
産業と情報との関わり	○領域全体の正答率は83.8%で、市の平均を6.6ポイント上回っている。 ○資料に着目してコンビニエンスストアの発注システムについて捉え判断する問題の平均正答率は70.8%で、市の平均正答率を8.0ポイント上回っている。	・日常生活において、インターネットを活用することで得られる利点にはどのようなものがあるのか、身近な例を踏まえながら考えられる機会を設ける。
日本の政治	○領域全体の正答率は77.3%で、市の平均を4.2ポイント上回っている。 ○基本的人権の尊重について生活の中の具体的事例をもとに判断する問題の平均正答率は90.8%で、市の平均正答率を6.0ポイント上回っている。	・日本国憲法や日本の政治が自分事として捉えられるように、授業内容に応じて身近な教材を効果的に活用できるようにしていく。
日本の歴史	○領域全体の正答率は68.5%で、市の平均を6.5ポイント上回っている。 ○室町時代の文化に関する問題の平均正答率は83.1%で、市の平均正答率を25.0ポイント上回っている。 ●豊臣秀吉の制作に着目して共通点を判断する問題の平均正答率は70.8%で、市の平均正答率を3.8ポイント下回っている。	・歴史上の出来事が起こった社会背景と、その時代の文化を関連付けられるよう、資料を活用した授業を継続していく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.2	71.8	76.2
	図形	72.3	67.7	67.8
	変化と関係	68.7	63.4	62.7
	データの活用	73.8	66.7	61.5
観点別	知識・技能	73.2	68.6	70.7
	思考・判断・表現	74.6	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

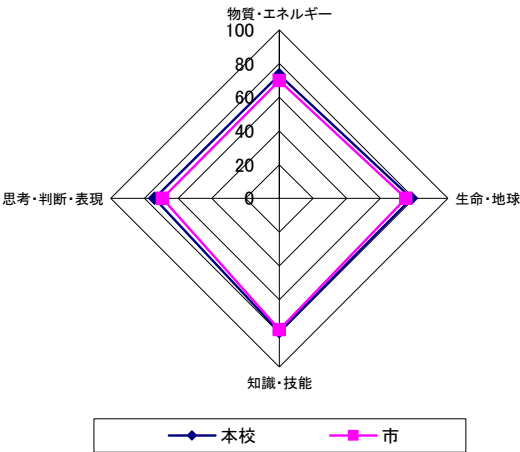
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域全体の正答率は76.2%で、市の平均を4.4ポイント上回っている。 ○図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をする問題の正答率は86.2%で、市の平均を11.3ポイント上回っている。 ●小数同士の乗法の計算技能を問う問題の正答率は60.0%で、市の平均を6.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習で基礎基本の定着を図るプリントに取り組ませ、計算処理の手順を定着させることで、計算処理能力の向上を図る。 ・フォローアップ問題や計算のプリントなどで繰り返し取り組ませながら、小数や分数の基本的な計算技能の定着を図っていく。
図形	○領域全体の正答率は72.3%で、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ○半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の面積の求め方を説明する問題の正答率は49.2%で、市の平均を14.5ポイント上回っている。 ●線対称な図形について、対称の軸が何本あるかを求める問題の正答率は47.7%で、市の平均を8.2ポイント下回っている。	・線対称、点対称の性質について、実際に具体物を操作しながら指導することで、それぞれの図形に対する多面的な見方ができるようにしていく。 ・図などの中に書き込まれていない必要な情報を書き足しながら考えることを習慣付けていく。
変化と関係	○領域全体の正答率は68.7%で、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ○図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察する問題の正答率は80.0%で、市の平均と同値であった。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題では、市の平均正答率を8.0ポイント上回っているものの、正答率が58.5%と低かった。	・数直線を使って、問題の場面を的確に表現して考える活動に多く取り組むことによって、基準量と比較量を正しく捉えて割合を求められるようにする。 ・低学年のうちから、問題の場面を正しく読み取り、図や表などに表しながら考えさせることで、その有用性に気付かせていく。
データの活用	○領域全体の正答率は73.8%で、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ○帯グラフを読み取って、説明する問題の正答率は46.2%で、市の平均を11.7ポイント上回っている。 ●値に0がある連続量の平均を求める問題の正答率は78.5%で、市の平均を1.8ポイント下回っている。	・平均値、中央値、最頻値の用語の定義の定着を図るとともに、活用の場面について考える機会を設ける。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.3	69.9	67.8
	生命・地球	78.5	75.1	73.7
観点別	知識・技能	79.2	77.8	78.4
	思考・判断・表現	74.0	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域全体の正答率は、73.3%で市の平均を3.4ポイント上回った。 ○「物のとけかた」のとける量の設問では、正答率が87.7%で、市の平均を15.5ポイント上回っている。 ○「ふりこのきまり」のふれ幅と往復時間の実験の設問では、正答率が78.5%で、市の平均を9.5ポイント上回っている。 ●「電流のはたらき」の比較実験を選択する設問では、正答率が47.7%と低く、市の平均を9.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・教材・教具の充実に努め、一人一人が体験しながら学習を進めることで、知識・技能の向上と定着を図る。 ・実験をする際には、実験の目的を明確にし、比較するための条件や方法を考えさせる場を設定した授業を展開する。 ・実験結果から考察する際に、友達や他のグループと比較したり、考えを交流したり場を設定することで、根拠を明確にして結論を導きだせるようにする。
生命・地球	○領域全体の正答率は、78.5%で市の平均を3.4ポイント上回った。 ○「生物と環境」の記述問題では、市の平均を11.1ポイントと大きく上回った。食物連鎖の仕組みについての理解が深まっていると思われる。 ○「月と太陽」では、すべての設問で市の平均を上回り、とくに月と太陽の位置関係を問う設問においてはかなり高い正答率を得た。 ●植物の水の通り道を問う設問では、正答率が64.6%にとどまり、知識の定着に課題が見られた。	・実験や観察の結果から考えたことを、根拠をもって文章化し、まとめる指導を継続して行うなど、自分の言葉で説明する力をさらに高めていく。 ・身近な自然現象に対する興味関心を高め、実験や観察の結果を実体験と比較して考えられるよう促し、さらなる知識の定着を図る。 ・実験中の難しい作業などでは教師が適切に支援するとともに、場に応じてデジタル教材も活用し、理解を深めていく。

宇都宮市立上戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思いを豊かに表現する児童の育成	読み取ったことや考えたことを、根拠を示しながら説明する活動を継続的かつ計画的に取り入れている。	6年生は、どの教科においても記述式設問の正答率が市の平均を上回った。また、3・4・5・6年生において「自分の考えを、理由や根拠をあげながら話すことができる。」という設問に肯定的に回答した児童の割合が市の平均を上回った。
自分の考えを深められる児童の育成	思考を共有する時には、視点を持って自分の考えと友達の考えを比較することで、自分の考えを吟味し深められるようにしている。	「ものごとをくらべながら考えている。」といった内容の設問に、肯定的に回答した児童の割合が市の平均を上回った。
高い意欲を持って課題に臨み、自力解決に取り組む児童	導入を工夫した授業展開や身近な生活の場面に置き換えられるような学習課題を設定している。	「学習していて、おもしろい、楽しいとおもうことがある。」「学習したことは大人になったときに役に立つと思う。」といった内容の設問に肯定的に回答した児童の割合が、市の平均と比べて高かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生は、国・県・市の調査ともに、記述式設問の正答率が市の平均を上回った。「自分の思いを豊かに表現する児童の育成」に取り組んできた結果であると考えられる。しかし、形式が決められた記述や、目的に合った記述を行うことに課題が見られた。次年度は、目的に応じて表現する力の育成に努める。

・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の設問に肯定的に答えた児童の割合が高くなかったことから、次年度は家庭学習や自主学習の取り組み方や内容を具体的に示すことで、児童の自己教育力を高めていけるように、学校全体で取り組んでいきたい。